

# 東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクトニュース “黄色いハンカチ”

【発行者】

松戸・東北交流プロジェクト(代表:古宮保子)  
〒271-0092 松戸市松戸 1834- 5 小川ビル 2階  
TEL: 047-710-5519 FAX: 047-710-5546  
E-mail: yellowhandkerchief1834@gmail.com

## “活動報告会2016”を開催 今後の被災者支援の在り方を語り合う

東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクト活動報告会2016は避難者・市民や福島県庁・宮城県庁・復興支援員などの行政の皆さんを含めて50名が参加しました。第1部は古宮代表からは避難者の帰還・定住・移住、生活再建の道筋について、避難者の主体的判断で選択ができるよう、情報提供、情報交換、交流、相談支援の活動を取り組むことが大切とのこれからの方向性を示す挨拶のあと1年間の活動報告が行われました。



(6月11日(土)松戸商工会議所)

第2部では基調講演は埼玉県で支援活動をしている埼玉県労働者福祉協議会専務理事の永田信雄さんに埼玉県での支援活動の取り組みをお話して頂きました。講演の中で「支援」ではなく「一緒に遊ぶ、一緒に生きる関係」が必要と述べました。パネルディスカッションでは、埼玉県で活躍している団体が住宅補償打ち切り問題について署名活動をし、県に申し出た事例を挙げていました。



パネラーの皆さん。右から2番目が永田さん



支援方針を述べる千葉県社会福祉協議会 山口様

### 第1回健康講座「お薬の話」2016年6月23日

松戸市立病院薬局長生島五郎先生に講演をお願いしました。避難者・市民合計27名が参加。ソフトな語り口で、生活の中で出会う身近なお薬の使用方法など事例を混ぜながらお話いただきました。お薬と食物の相互作用・内服薬の誤嚥をなくす工夫等を聴きました。新しいことでは、OD錠(口の中でのける薬)の便利な使い方(幼児・高齢者)、お薬手帳の内容をスマホ・携帯に画像として写し持ち歩くと便利などの知恵も授かりました。終了後、先生の周りには個別相談者がお薬手帳片手に集まりました。市立病院は、健康講座の宝庫と分かりました。先生を通じて、今後も計画していきます。



### 受ける災害を軽減する工夫・家庭編 第1回

#### ■震災が起こる前の準備

千葉市は、今後30年以内に震度6弱の地震が起こる確率は85%と政府地震調査研究推進本部は発表しました。

#### ■窓ガラスの割れに工夫

夏でも、夜寝る時カーテンを引く/ワンちゃんのケージがガラス戸の近くにある/窓ガラスに飛散防止フィルムを貼る。

これから試します/窓ガラスの拭き掃除は、うまく出来るのでしょうか。防犯にも役立つそうです。

#### ■家具の固定

ポール式器具で固定。ポールは家具の奥側に立てる。

家具の向きを倒れても安全な方向に設置。

テレビは、専門家によると飛んでくる。

特に寝室のテレビの置き場所に工夫をしましょう。

### 避難者の体験記

### 連載!私はその時こうだった 佐藤幸子さん(福島県南相馬市)

被災者の方に、3.11の貴重な体験を一人でも多くの皆さんに忘れないで知って頂き語り継ぐことで今後も起こりうるであろう大災害に対してどんな心構えができるのか?自分自身に問いかけて頂けたら幸いです。

私は2011年3月11日東日本地震のあの時間14時46分、ある大きいお店でパートとして働いておりました。あの恐ろしさは今でも忘れられません。

お店の事務所の案内放送で社員、パートへと伝言があり「お店でのお客様を隅から隅まで探して外へ案内して下さい」との事、地震の揺れもひどく恐ろしい光景でした。お客様は30人位いましたが、誰一人けがもせず衣料から毛布を一人ひとりに支給されました。お店の中は天井から電気も落ちレジは電源が次々と切れ、加食ディラーは棚から床へバラバラ、ガラスは散々、通路も

歩けないぐらいで鮮魚、肉、野菜、お惣菜の各部門の仕事場もメチャメチャでした。お店は築30年で東日本地震の件で閉店になり私も解雇になってしまいました。そこに東電の放射線被害です。

今年で5年目に入ったけど何ひとつ変わっておりません。逆に悪くなる一方です。これは本当です。生活面、仕事面、人間関係、すべてに大きな損害を受けました。

この場、黄色いハンカチは情報、色々なイベント、一般市民との対話、東北の被災者への支援本当に心が安らぎます。

## 「陽の下に新しきものなし」

住宅終了切り捨て政策など何の裏づけもなく闇に封じ込めようとするやり方は今にはじまったことではない。古の時代から東北の地は鬼門とし為政者によって禍々しいものと位置づけされて来た。そして現代、人類に仕返すかのように、原発という怪物があらわれた。又しても東北、これだけ悲惨な事実があろうとも繰り返すこの世とは！！古代ローマの格言に人間社会には“陽の下にあたらしきものなし”とあるが文明が進んでも“欲望という名の下には”をつけ加えたい。 南相馬市 60代 女性

## みんなの広場

## 「5年前と何も変わらない」

私が先ず思うのは、国と東電に現地の現状を何度も見てきちんとその都度把握をして欲しいと言う事と自主避難者、避難者の方々が何を訴えているのか、そして何を求めているのかという事にもっと敏感で有って欲しいと言うことだ。もう直ぐ5年が経つが、本来ならば避難先で明日に目を向けなければと思える月日が経っている筈が仕事の斡旋のシステムや住宅支援の補償もきちんとできていない状態では未だに個人で何とかするしかなく、それは5年前と何も変わっていない。 松戸市 30代 女性

## 「今に生きる大人の責任」

原発事故は絶対に起きないと説明し、推進してきた国家は、絶対起きないはずの今回の福島事故を受けて、いかなる認識をしているのだろうか。震災5年を経て見て取れたのは、想像以上に狡猾で無責任な同じ人間とは思えない知能ではなかっただろうか。本質的な反省と弁明を受けない限り、一度失った我々の信頼を取り戻すことは出来ないことを、我々被害者もまた、国家に知らせる必要があるのではないだろうか。被害の有無、福島県内外の有無、職業の有無を問わず、「人として」行動することが、今に生きる大人の責任であると考えている。 福島県 自主避難者

## 「長きを以て尊しとせず」

ボランティアも寄付も注目されています。阪神淡路大震災以来ボランティア活動のネットワークも大きな力になっているようです。寄付もずいぶん集まっているようです。世界に誇れる日本国民の善意ですが、ただそれがどのように使われているかが分からない食料なのか、仮設住宅なのか、道路なのか、目に見える形にしてみたい。マニフェストなんてわざわざ言わなくても今やらなければならないことは誰が考えたってはっきりしている。昔から長きを以て尊しとせずという信念で要は何をやるのかが問題なので長いか短いかは結果でしかありません。 松戸市 70代 女性

避難者の「先の見えない不安」から少しでも気持ちが和らぎ、心が軽くなるように願いながら投稿のコーナーを作りました。日々の暮らしを感じた想い不安や不満を本音で書いていただきました。

## 健康講座



## 介護保険のきほんを学ぶ

日時：7月21日(木) 13時30分  
場所：交流サロン 黄色いハンカチ  
講師：佐久間浩子さん

## お知らせ

松戸市市民劇場

チャリティーコンサート  
荒野座がやってくる！

日時：9月23日(金) 14時30分  
場所：松戸市民劇場  
参加費：1500円



交流サロン「黄色いハンカチ」は8月から月曜日もオープンします！ 火～木と同様オープン時間は10時～16時です。

## 自主避難者活動記録

自主避難を語り合う会代表 佐藤利雄さん

わたくしの家の近くにある老人クラブ「松柏会クラブ」の皆さんと趣味活動を行っています。今回はカラオケに参加しています。メンバーの皆さんには優しくしていただき感謝しています。ふるさとの写真を見てもらい、帰れない現状を今の思いを伝えています。

## 松戸・東北交流サロン「黄色いハンカチ」7月予定表

日時	内容	講師
15日(火) 13時30分～	歌の日 みんなで楽しく歌いましょう	市民ボランティア 前田洋子さん
13日、27日(水) 13時30分～	初めての囲碁教室 一から教えます	市民ボランティア 今田靖雄さん
14日(木) 13時30分～	お茶の文化を楽しむ 歴史ある中国茶を楽しみましょう	市民ボランティア 友山邦雄さん
19日(火) 13時30分～	手芸の日 楽しみながら折り紙してみませんか！	市民ボランティア 戸丸栄子さん
21日(木) 13時30分～	健康講座 介護保険のきほんを学ぶ	ふれあいネットまつど 佐久間浩子さん
26日(火) 13時30分～	自主避難者交流会 住宅問題について松戸市に聞きます	
毎週金曜日	相談日(予約制) 税務、法律、仕事、年金など	相談員 古宮保子さん

## ■ アクセスマップ ■

松戸・東北交流サロン「黄色いハンカチ」  
松戸駅西口から徒歩5分(八百屋さんの隣のビル2F)



●毎週火・水・木 10時～16時オープン。  
利用は1回100円です